

令和2年度 全国学力・学習状況調査の結果について

新宮町教育委員会

1 全国学力・学習状況調査について

- (1) 実施日 令和2年8・9月 各校にて実施日を設定
- (2) 調査対象 小学校第6学年、中学校第3学年
- (3) 調査の内容 児童生徒質問紙調査のみ町独自で調査・集計を実施
- (4) 調査方式 悉皆方式

2 調査結果について

(1) 令和2年度全国学力・学習状況調査に係る問題冊子等活用状況

本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休業となったため、例年4月実施の全国学力・学習状況調査について、問題冊子及び質問紙の配布が行われ、その活用は各自治体の判断によることとなった。新宮町では、町内小・中学校において以下のように取り組み、活用を図った。

- ・ 問題冊子については、各学校の学力・学習状況の傾向や成果及び課題を把握するために活用し、把握した傾向や課題については、授業改善に反映させること。

(小学校：国語科、算数科 中学校：国語科、数学科)

- ・ 思考力・判断力・表現力等を問う問題について、例年課題が見られることから、町内校長会が主体となり、問題冊子を参考にした類似問題を作成し、小4～中3までを対象に全小・中学校で取り組むこと。
- ・ 具体的な活用場面としては、授業の中で発展問題や教材研究への活用、学力向上プロジェクト会議等の資料として生かすなど、児童生徒の資質・能力を育てるための活用を推進すること。
- ・ 問題冊子及び質問紙調査についての活用や分析をもとに、各校の令和2年度学力向上プランを適宜バージョンアップさせるなど、新宮町がめざす学力向上の姿の達成に向け、小・中切れ目のない取組を着実に進めること。

(2) 児童生徒質問紙の回答結果と考察

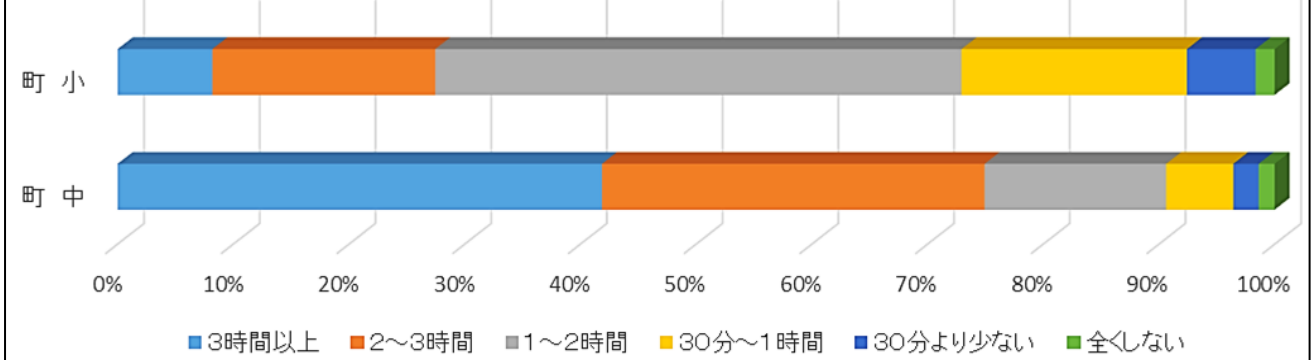
質問項目	小学校	中学校
将来の夢や目標をもっていますか	81.4%	69.7%
難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していますか	71.7%	76.6%
学校のきまり・規則を守っていますか	95.1%	96.4%
前学年までの授業で、課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組んでいたと思いますか	76.8%	82.6%

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した子どもの割合

上の表にまとめた項目は、「令和2年度福岡教育事務所学力向上プラン」において、学力との相関が見られる項目として示されたものである。「学校のきまりや規則を守っているか」の項目に対しては、95%以上の回答が見られる。このことは、コロナ禍において、学校での感染対策に基づいた様々なルールの変化についても対応していることがうかがえる。挑戦に関する項目に対して、さらに自信をもってチャレンジできるような授業改善や学級経営について見直す必要がある。

学習習慣・読書習慣について

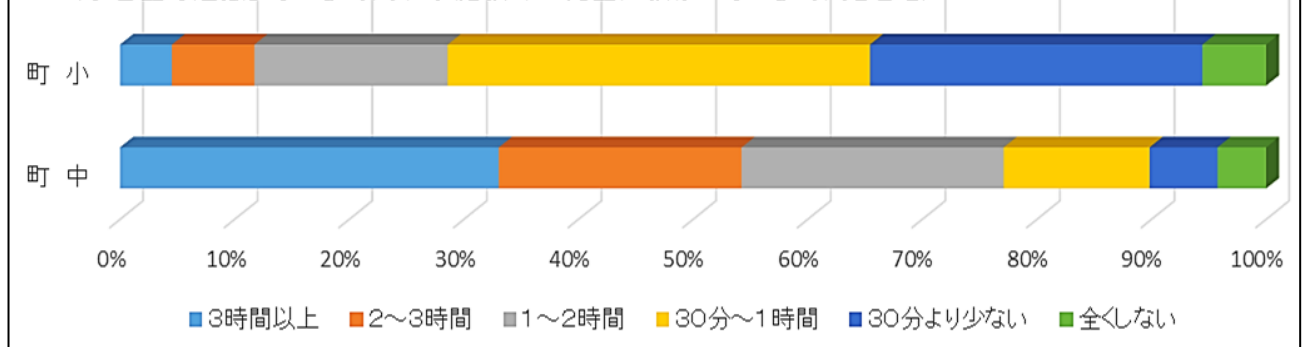
学校の授業時間以外に普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間勉強していますか。
(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間を含む)



平日授業以外での勉強時間は、町内小学校第6学年児童の約7割が2時間以内である。平日授業以外での勉強時間は、町内中学校第3学年児童の約7割が2時間以上である。

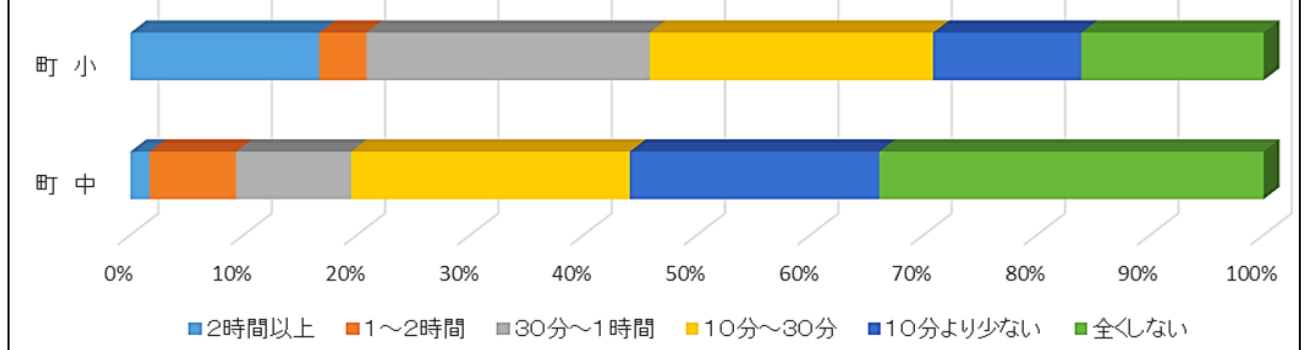
(町内学習時間の目安小学校5・6年生75~90分 中学3年生135~150分)

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間勉強していますか。
(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間を含む)



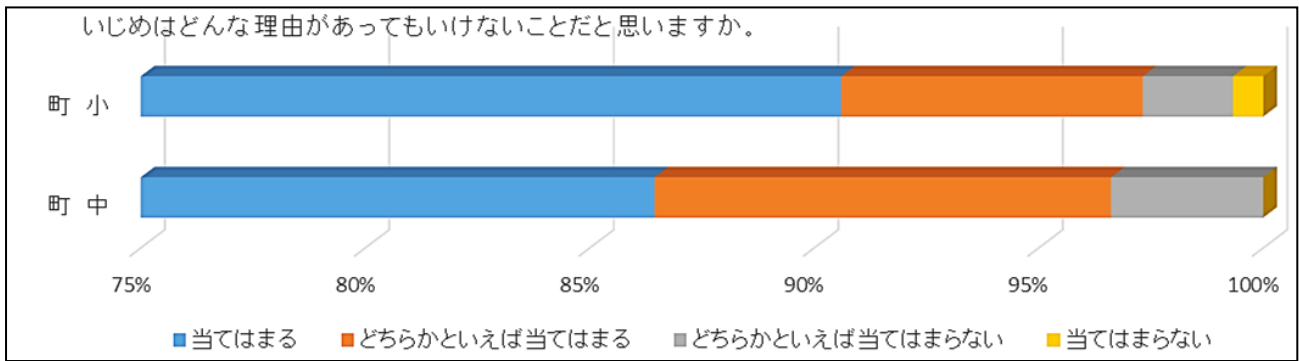
平日に比べて、学校が休みの日は、勉強時間が減少している。町内小学校第6学年は、約7割が1時間以内であった。町内中学校第3学年は、約6割が2時間以上勉強時間に使っていることが分かる。

学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらい読書をしていますか。
(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)



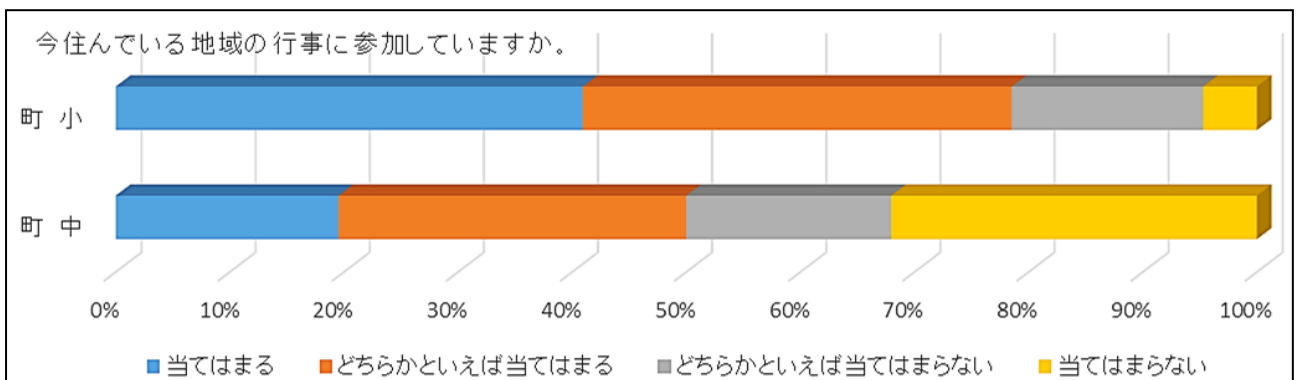
「全くしない」についての回答は、町内小学校第6学年が17.8%、中学校第3学年が、26.7%であった。令和元年度と比較すると、小学校は、-0.1%とほぼ変わらず、中学校は、-5.2%であった。

いじめの認識について

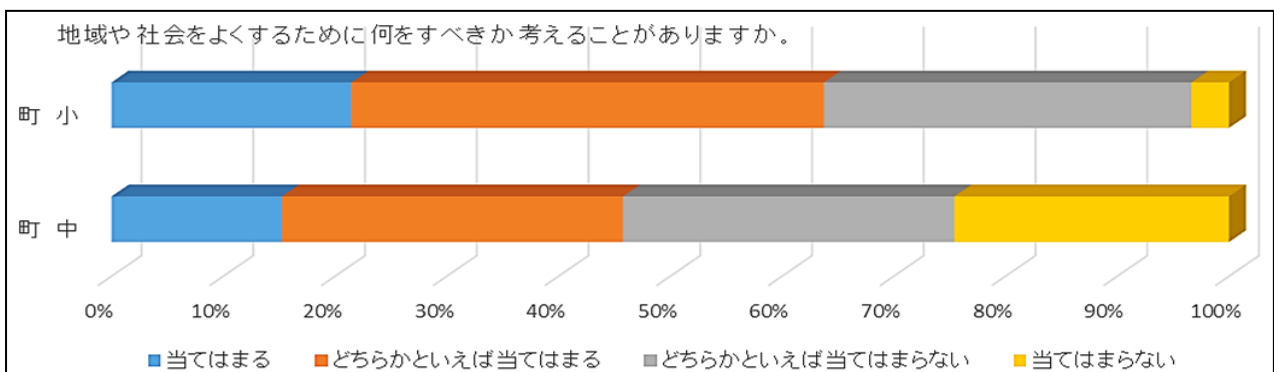


小学校第6学年、中学校第3学年ともに、95%以上の児童生徒が「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と回答している。また、「どちらかといえば当てはまらない」と「当てはまらない」の回答が、小学校第6学年が2.9%、中学校第3学年が4.0%であった。この回答に該当する児童生徒については、回答状況を把握するとともに、今後も継続した丁寧な見とりが必要であると考えます。

地域貢献について



本年度は、地域行事も中止・縮小が続いたため、「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」に回答している児童生徒が多く見受けられる。小学校で3～4割、中学校で5割程度である。コロナ禍でも地域とのつながりを途絶えさせないように、オンラインや規模を縮小してのディスカッションなどを学校が企画する活動を行っている。



「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した小学校第6学年児童、中学校第3学年生徒は、どちらも5割程度である。前項目のように、本年度の地域行事との関わりの減少に伴っての変化が見受けられる。各教科等での単元・題材でのつながりにおいて地域を意識して、よりリアルな単元・題材の開発を通して、カリキュラム・マネジメントを図る必要がある。